

令和元（2019）年 11 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和元（2019）年 11 月 6 日
午前 11 時～12 時 2 分
柏崎市役所大会議室

1 発表事項

(1) 地震発生による全面緊急事態を想定した原子力防災訓練を実施

（主管：防災・原子力課）

8 日、9 日に新潟県が主催、柏崎市防災会議が主管で地震発生による全面緊急事態を想定した原子力防災訓練を実施します。2014 年、平成 26 年以来の原子力防災訓練です。今回、新潟県に避難計画が作られて初めて行います。この避難計画の作成に関しては、私も市長就任直後から、避難指針ではなくて避難計画の策定を県にも要請をしていたところで、最悪のパターンとして想定される冬期間の夜間の降雪時ということ、それから訓練結果も踏まえ、実効性ある避難計画を求めているところです。

まず想定は、柏崎刈羽で震度 6 強の地震が発生したということで、8 日は机上訓練を、9 日は住民の方々も参加していただき、実際の訓練を行います。

バスによる住民避難訓練では、原子力発電所から北方向にある、大湊、宮川地区の方々は大湊集会場、高浜コミュニティセンターに集まり、大型バス 2 台に分乗して、村上市へ避難します。原子力発電所の南南西方面の松波地区の方々は、松浜中学校、はまなす特別支援学校、松波コミュニティセンターの 3 箇所に分かれて 2 台のバスに分乗して、糸魚川の避難経由所へ避難します。また、原子力発電所から南方面の西中通地区の方々は、日吉小学校、西中通コミュニティセンター、それから榎原小学校の 3 箇所に分かれて大型バス 2 台に分乗し、妙高へ避難します。バスでそれぞれ村上、糸魚川、妙高に避難していただく方々は、合計バス 6 台で 3 地区 179 人です。

それからもう 1 つ、道路の寸断を想定して、船舶による住民の避難訓練を行います。一番北にある椎谷地区の方々は、椎谷ふれあいセンターに集まり、高浜漁港から 20 人が、船舶で沖合に停泊をしている海上保安庁・海上自衛隊の船舶に避難する訓練を行います。天候が悪い場合は行わない予定です。

そして UPZ の全地区住民を対象に、防災行政無線による屋内退避訓練を行う予定です。

それから 8 日に、県と、また国との連携を含めたテレビ会議が 2 回予定しています。私も柏崎市としてこのテレビ会議に参加します。

9 日のバスによる避難では、バスの中でそれぞれ避難に当たっての心構えなどのミニ講座

も行われると聞いています。

**(2) 「熟睡プラ寝たリウム」を県内初開催
－国内設置 4 台の最新投影機「オルフェウス」で**

(主管：博物館)

県内で初めて市立博物館で「熟睡プラ寝たリウム」を開催します。この熟睡プラ寝たリウムという企画は、2011 年から明石の天文台の方々が始められました。国内では 4 台しかない最新投影機「オルフェウス」で行うことに関しては県内で初めてですし、熟睡プラ寝たリウムというこの企画も県内では初めてです。ぜひ多くの皆さん、市民の皆さんに、この熟睡プラ寝たリウムを体験していただいて、最新投影機のオルフェウスの実力を見ていただきたいと思いますし、併せて松雲山荘の紅葉もご堪能いただければありがたいと思っています。

**(3) 市外大学生が感じた矢田の魅力をまとめた冊子「ヤタのタネ」
－田舎暮らしインターンシップ事業**

(主管：市民活動支援課)

柏崎市内の矢田地区に、この夏、田舎暮らしをしたいというインターンの大学生、女性 3 人がお越しになって、その矢田で集落の方々と一緒に時間を過ごしました。女子大生 3 人が、矢田に魅力を感じていただいて、また矢田の方々もその女子大生との交流を通して、自らの地域の魅力に気づき、再発見したということを含めて、この 3 人の学生さんたちが地域の方々と交流を記録し、まとめた「ヤタのタネ」を作っていただきました。このヤタのタネという小冊子が、地域おこし協力隊のお越しいただくことに繋がったらありがたいと、そして矢田の魅力をより多くの方々に伝えることに繋がればと考えています。

2 11 月 4 日付け新潟日報 2 面の記事内容に対する市長のコメント

今回、新潟日報柏崎支局長には大変申し訳ないですが、11 月 4 日の新潟日報の記事で、私の廃炉計画に関して、前東海村長の村上さんのインタビュー記事の中で私としては合点がない点がありました。それはこの記事の見出しにもある「再稼働前提民意確認を」と村上さんが仰っていることです。今日、皆さんに私が柏崎市長選挙に立候補させていただくに至ったチラシを配布しています。2011 年に新聞折込で配布させていただいた、私の原子力発電所に対する考え方、再稼働に対する考え方、もしくは原子力発電所を止めることに対する考え方を示したチラシをご覧になられた方々、いろいろな立場から、もう一度市長選挙に出る

とお声掛けをいただいて立候補させていただいた。つまり立候補させていただいた段階で、私はすでに原子力発電所の再稼働の価値を認めると同時に、日本において原子力発電所は減らしていくべきだということを申し上げて立候補し当選させていただいたところです。村上前村長のお話によれば、3つの検証と言われている県の検証委員会と総括委員会の検証の最中では、再稼働を認める、認めないという話をする状況ではないと、廃炉計画も柏崎市長が求めているだけだと、検証が不要だと言っているに等しい、不遜に映ると。私自身、例えば事業峻別や他のことで不遜だと言われるのは私の不徳の致すところで、甘んじて受けなければいけないと考えているところですが、原子力発電所の問題で不遜な態度を示してきたつもりはありません。原発反対派の方々とも求められればどこにでも伺って意見交換をさせていただきましたし、また原子力発電所の再稼働に関して反対するの方々とも話をさせていただきました。東京電力から先般いただいた回答に対して、議会の方々、いろいろな方々からご意見を伺って、最終的にまだ私の評価というものは出していない現段階で、このように民意の確認をと言われ、さらには不遜だと言われると、私としては少し承服し難い部分があります。地元紙の方々、以前にも柏崎に着任されていた皆さんからは、私の十数年前からのスタンスは十分ご承知いただいているだろうと思いますが、それ以外の方々の中には、今日お配りしたチラシをご覧いただいてない方が多いだろうと思います。私は今ほどお話しした経過の中で再稼働を認める、一方で原子力発電所は徐々に減らしていくということを申し上げて立候補させていただき、当選をさせていただいたという点を、皆さんにあえて確認していただきたく、あらためてお話しさせていただきました。

3 質疑応答

◎新潟県原子力防災訓練に関する質問

記者：避難訓練の実施に対する評価と、この訓練を通して確認したい事項、それから9日の訓練には、市長自身はどのような立場で参画するのか。

市長：避難計画を作られてから1年経たないうちに避難訓練まで結び付けていただいたという部分に関しては、その知事のお考え、誠意に対して評価させていただきたいと思います。

それからどういったところに課題を見出していきたいのかということは、バスも含めて、

交通手段の確保に関しては、その実効性についてを避難訓練で見ていきたいと思えます。

それから9日は、基本的には高浜コミュニティセンターに宮川の方々が集まってこられる様子、それから椎谷地区の方々が船舶で避難される所を視察させていただきます。

記者：避難訓練の実施に当たって、知事としても6月に東電が通報ミスをしたということで、その点を注目したいということ言っていたが、市長としては今回の訓練で、東電側の動きで確認したいことはあるか。

市長：私が何よりも重要視したいのは、この避難訓練において、本当に交通手段を含めた実効性の確保ができるかという点です。住民の方々がバスや船舶等で避難できるのかということも含めて確認したいと思えます。先ほど少し申し上げたように、特に船舶の場合は、天候が悪く波が荒い場合には避難できないので、どういった状況でこれができない判断をするのか、このくらいの波だったら行けるのかといった部分の実際の判断も見極めさせていただきたいと思っています。

記者：船舶による訓練は、今まで実施したことはあるか。

市長：少なくともないと思えます。海上自衛隊や海上保安庁の方々にご協力をいただくということも、まず私の記憶の限りにおいてははないと思えます。

記者：2014年以來ということ、船舶の訓練以外で2014年以降初となる訓練で組み込まれているものはあるのか。

市長：まず一番大きい違いは、避難計画になったことです。今までは避難指針でしかなかった。個別の部分では、船舶の部分も、テレビ会議での通信環境もその2014年に比べると改善しています。国の指針、考え方も変わってきています。特にやはり大事なものは実効性ある避難計画という部分です。意識した訓練になっているのではないかなと思えます。

記者：その交通手段の確保は、訓練ではもうすでに大型バス2台に乗ることが決まっているが、すでに準備されている中で実効性があるかどうかを確認するという点においては、

どういうところをチェックされるか。

市長：もちろんそれはそうですね、シナリオがあるわけです。ただ地域全体で、いわゆる何も知らせずに訓練をするのは、非現実的だろうと思います。ですから一定程度やはり想定された中で行われるしかないと思っていますので、高浜コミュニティセンターに宮川の方々が集まってこられるお年寄りも、天気が悪かった時に、近いところが私たちの何倍も遠くに感じられてしまうので、このバスの集合場所まで来ることができるのかどうか、避難の仕方を私も確認したいなと思っていますし、そういったところをやはり県の方々も実効性があるかどうかという部分をご覧になるのではないかと思います。

記者：新潟県の最大の問題は、過去に国との合同訓練を行っていないことで、もっと国との訓練を早くやってほしいといった気持ちはあるのか。

市長：今お話しいただいたとおりです。私が就任直後2カ月ぐらい経ってから、北海道泊村で行われた国も直接的に関わる冬期間の避難訓練を見せていただき、新潟県も最終的には最悪のパターンは冬期間、夜間の積雪時ということで、それをやってもらいたいということは申し上げてきたわけです。今ご指摘いただいたように、今は県の主催でやっているわけで、この7月に原田原子力防災大臣にはお越しいただいて、1月に見た冬期間の車が通れるかどうかについて話しをいたしました。国が基本的に原子力防災に関しては直轄するという部分、国主催の原子力防災訓練というものも、もちろん県を通して求めていかなければいけないと思いますし、ずっとそれは求めているところです。

◎東京電力の廃炉計画への評価に関する質問

記者：廃炉計画関係の市長の評価を伝える日程の調整状況は。

市長：タイミングが合えばいいなと思いますし、まだそれは確定的ではありません。いずれにせよ東京電力の方も、今月中には間違いなく日程を確保できるだろうということで今調整を行っているところです。

◎東京電力への追加データ要請に関する質問

記者：市長が求めていた追加の雇用などに関するデータについては、既に受け取ったか。

市長：まだです。アバウトなところは出てきていますが、その後関西電力の問題も出てきたわけで、柏崎刈羽も当然ながら、県内の状況についても調べてもらいたいとお願いしています。東電からは、なかなかそこまで追えるかどうかという部分がありますが、今まだ詳しいデータは来ていません。

記者：それと今回その評価を伝える上で新たな条件として、市長が考えている条件は。

市長：安全、安心をより一層担保するもの、また経済的なものだけではないところの豊かさをより一層担保するものを条件にし得る、そういったものを条件にしていくと申し上げています。もちろんそれから報道機関の方々や市議会の方々、市民の皆さんからのご指摘も含めて、一定の評価をするということも先月申し上げましたが、その一定のという部分を、さらに各部を深めるような部分で今お話しはしたいと考えています。

記者：求める調達データの範囲を柏崎刈羽だけではなくて、県内全体に広げた理由は。

市長：関電の問題もきっかけになって、県内の他の市長さん村長の皆の中には、柏崎刈羽だけではなく、もう少し広い視点も必要ではという趣旨でお話しされる方も何人かいました。確かにそうだなと。もちろん私共立地自治体としての柏崎市、刈羽村は自負を持っていますし、それなりに難儀も貢献もしてきたという部分もあります。他の自治体とはやはり違うとは思っています。ただ一方で今の時代、他の自治体の方々の考え方というものを一定程度やはり組み入れていかなければいけないのではないのかなと考え、追加というかたちで、東電にできる範囲で調べていただいています。

記者：新しい条件では柏崎刈羽だけではなく、県内全体にも波及するような条件を求めるか。

市長：県全体に関わることは、やはり県の責任者である知事の領域だろうと思いますが、知

事は再稼働などの議論はまだされないとお話しされているので、基本的に私の立場では、できる限り柏崎刈羽の条件となりますが、ただ周辺の自治体、もしくは県内の自治体の方々からそういうご意見もあるので、できればというかたちでお願いするというレベルです。

記者：市長が東電に対して評価することと、新しい条件を示すことが柏崎の経済や市民にとって、どういう意味を持つとお考えか。

市長：まず私はオープンにすることが大事だろうと思いますし、そういった中で経済界の方々からもいろいろなご要望が出てくるのだろうと思います。やはりそういった意味で原子力発電所の存在が柏崎市にとって、経済界にとって、どのぐらいのポジションなのかということを確認するきっかけになればいいのかなと考えています。

記者：その発注データの範囲を柏崎以外の県内まで求めるということですが、そのデータをどのように活用されるのか。

市長：それは私の活用ではないです。柏崎市外の首長の皆さんや経済界の方々が、東京電力に対して自分たちにもこれだけの仕事をさせてもらいたいというご要望をされるかされないかというのはそれぞれのご判断だと思います。私は原子力発電所を立地している自治体の首長として、そのデータをまずオープンにすることで、皆さんにもその議論の1つのきっかけを作らせていただければありがたいと考えているところです。

記者：今データを求めているのは、柏崎市長の名前で求めているかと思うが、それを市長が受け取って、各自治体の首長にそれを公開するというような流れか。

市長：例えば東京電力自身が発注している仕事もあるかもしれないが、関係する企業とかを通して発注されている仕事もあるわけです。そういった方々まで、市外はどのくらいで県内はどれくらいでということまで追えるかということに関しては、東京電力からもなかなか難しいかもしれませんと聞いています。柏崎を除く県内の受発注が数字で出てくるかは分かりません。

記者：では数字が出て、もし来たらその時点で活用されるということか。

市長：それは出た段階で、それぞれの自治体の方々がご判断されればいいことだと思っています。

記者：県内の柏崎以外のデータはまだ受け取ってないということだが、その前に市長がもともと求めていた、どの分野にどれぐらい柏崎の企業が参入しているかという、データは受け取っているのか。

市長：総額でどれぐらいの割合で市内の企業が直接、間接受注しているかという、大まかな数字は頂戴しています。それが建設業の部分なのか、日用的な部分なのかという部分も含めて、だいたいの総額は承知しています。

記者：それをご覧になっての感想は。

市長：一言で言えばそう高い割合ではないと思いました。

記者：市長としては、もう少しその数字、つまり割合を伸ばしてもらいたいと。

市長：柏崎市に直接、間接いただいている仕事がこのぐらいですと、割合がこのぐらいだということは聞きました。それぞれの立地自治体の中で、どれぐらい仕事が発注されているかということは承知していません。つまり、比較対象ができませんので、私のあまり高い数字ではないという部分が客観的なものかどうかというのは、そこまでは私もわかりません。

記者：受け取ったものについては、何かしら回答の中では反映をさせるのか。

市長：もちろん社長に言う時にはそういうふうに話したいと思いますが、より一層地元との連携といったものは考えてもらいたいというような表現になるだろうと思います。

記者：今追加で求めているその柏崎以外のデータというのは、それを受け取ってから社長へ

の回答というかたちに。

市長：もう少し細かいものは、まだ市内のものに関しても今積み上げてもらっている最中ですので、市外、県内の部分に関しては、社長の回答に対する私のコメントには間に合わないと思います。

記者：今現在で回答するために十分な材料は、すでに揃っているという認識か。

市長：その受注データがより正確なものが出てくればいいですが、アバウトなものできていますので、私としてはその数字が高い数字なのか低い数字なのかというのは私の直感でしか申し上げられない範囲です。より一層今後も地元の経済との連携といったものを強化してもらいたい、充実してもらいたいと思っています。

記者：今評価する時に他社との評価と話されたが、それが難しいから、むしろ時系列的なところも入れて、どの自治体でどれぐらいの割合になっているかを求められていると思うが、それは下がってきているという印象か。

市長：いや、私は下がってきているという印象はないです。少なくとも今のご質問の趣旨は、原子力発電所が平成 23（2011）年 3 月 11 日・12 日に止まって、受注量が下がっているかどうかという質問ですよ。少なくとも 6、7 年近くはないです。ほぼ同じような金額、割合でできています。

記者：割合か金額か。

市長：額です。6 号機、7 号機だけではなくて、柏崎刈羽原子力発電所全体の中で、年間どれぐらいの仕事がされているかという総額に対して、その中で東京電力から直接柏崎市の企業、もしくは東京電力から間接的にいろいろな企業を通して柏崎の企業に発注していただいている額の割合ということです。額も割合もほとんど変わっていません。

記者：東電に回答する内容を考えるために当初データを求めていたかと思うが、県外のデー

タを求めるということになると、その最終版が出るのは市長が東電に回答する後になる可能性もあるのか。

市長：出るか出ないかも含めて後になると思います。先ほど申し上げたように市内のデータも、細かい部分も社長にお話しする以降になるかと思います。アバウトな部分としては。

記者：そのアバウトな部分がもうすでに出ているので、それをもって東電さんに回答するための材料は集まったと考えていいのか。

市長：その数字が他の原発立地点に比べて高いのか低いのかというのは承知できないので、先ほど申し上げたように、より一層地元経済との連携を高めてもらいたいという、その部分は、はっきり申し上げます。何パーセントの部分は何パーセントにしてくださいというような話し方はしません。

◎東京電力との面会に関する質問

記者：あと東電さんとの面会が今月中にはということだったんですが、設楽所長の先月の会見で一応上旬にはというふうにおっしゃっていたが、その上旬からはずれるのか。

市長：もちろん最優先しているところですが、私と社長の日程が合わないし、この間いろいろな事柄が台風も含めて重なっていますので、ずれ込んでいるということです。

記者：そのいろいろな事柄ってというのは、東電側でいえば主に台風対応ということが大きいのか。

市長：そうですね。大きいところはそういったことじゃないでしょうか。一部ご批判も東電としても受けているわけですから。

記者：確認ですが、東電の社長との面会なんですけども、面会は今月中ということでもいいのか、調整ができるのが今月中かどちらか。

市長：いや、お目にかかって私がお話しする機会を得るのが今月中といことです。

記者：ある程度の評価をすべき数字は先月の段階から出ているので、これ以上細かいものを求めるのは、とりあえず回答いただけたときの段階で回答しましょうという判断に至ったと。

市長：アバウトなその割合にしても額にしても承知しています。ただ先ほど申し上げたように、比較してその数字が柏崎刈羽だけ高いのか低いのかというのは比較できないものですから、私の表現としては、より一層地元の経済との連携を密にしてもらいたいというふうな表現で社長にお話しするというにしています。

以上